



# 市民協働による 地域デジタルアーカイブの課題と可能性 —10年の試みの中から—

専門は歴史学、民俗学、考古学。昨年3月まで新聞記者。

過疎先進県の高知で、文化資源の忘失に直面。仕事の傍ら地域に入り、住民と市民団体を設立して約10年にわたって地域資源の記録活動を展開。

高知地域資料保存ネットワーク事務局、高知県の学校資料を考える会、満州の歴史を語り継ぐ高知の会、西土佐の満州分村を語り継ぐ会、秦史談会で事務局長を歴任。

**楠瀬 慶太**

(高知工業高等専門学校)

# 課題解決 の方法



## 「おさるのジョージ」のクイント夫人になろう！ 市民科学者（市民研究者）になろう！

その前提は、科学は研究者だけが探究するものではない  
市民も一緒に科学を楽しもう



【研究倫理】 資料や成果を独占しない、地域の意志を尊重する、一緒に考える

歴史学の資料や歴史学の対象とする文化を、市民も一緒になって探究しよう  
地域の人に教えられることの方が大きい

素人だから史料に触れさせない



知識を社会実装して担い手を増やし、  
継承できることの方が大事

地域の文化を地域の人が記録する（記録者）



学問的に検証することで、地域のかたちを知り、  
保存活用につなげる（継承者）



# 2 報告から考えるープレ文化資源とデジタル文化資源ー

◆伊藤裕夫2009「地域文化資源とプロジェクト・マネジメント」『アートマネジメント概論』（三訂版）水曜社  
 ◆国立民族学博物館2012『文化資源研究センター活動報告2012』  
 ◆柳与志夫2020『デジタルアーカイブの理論と政策』勁草書房  
 ◆福島幸宏2011「地域拠点の形成と意義」、佐々木秀彦2011「新しい担い手の創出」『デジタル文化資源の活用』勉誠出版

DAの角度を変えて考えてみる

## ・ 図書館や博物館、大学、教育委員会など公的施設に入り、目録化された文化資源

アーカイブ（文化資源） → デジタルアーカイブ（デジタル文化資源） 柳2020

公開、MLA連携、専門業者との連携が比較的容易 - 人材（マンパワー・専門性）、資金、内的

→ 市民参加はまれ、研究者や行政も地域に入りにくい、地域アーカイブにきっかけがないとアプローチしにくくなっている

## ・ 地域にあるコレクションや民俗伝承などの文化資源 → 地域アーカイブズ 地域情報は住民のなかに、継承者である地域との関わり

◆未整理で、文化資源としての定義づけが不明確（プレ文化資源） 佐々木2011、福島2011

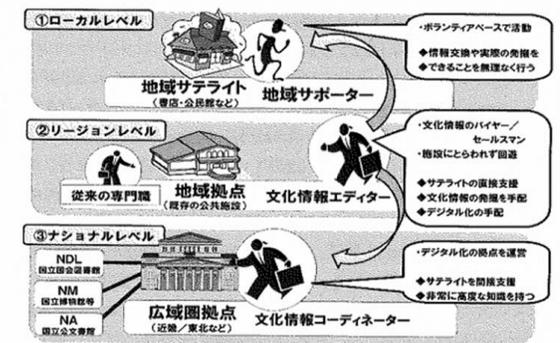
◆アーカイブ化のための専門性、マンパワーが課題

◆公開には、専門性、マンパワー、資金面に高いハードル（文化資源化、デジタル文化資源へのステップアップ）

→ 公開できれば、地域の主体が継承・活用できる可能性 文化情報コーディネーター。サポーターなどの育成といった公的支援が提起

→ 市民目線の2報告は、公的支援とは異なるアプローチ

福島2011より



## 文化資源（伊藤2009、国立民族学博物館2012）

人間が生みだした有形・無形の所産とそれをめぐる知。およびその知の習得・共有・継承が持続的に行われていく環境システム

【例】地名, 屋号, 民俗伝承(無形), 近現代資料, 古文書(有形), 村落景観, 棚田(複合)

## 2 報告から考えるーなぜ今地域アーカイブ、デジタルアーカイブ？ー

◆暮らしの変質、集落の忘失・消失、**地域のアイデンティティ**とは？

→ **活性化よりもまずは地域の足元、何か大切なものを忘れていないか**・・・

◆文化財保護法改正の追い風ー未指定文化財にも支援の可能性

文化財保存活用地域計画の策定が各自治体で → **文化資源の記録・地域アーカイブへの注目**

◆地域アーカイブは郷土史の土俵ー活字ベースで誰も知らない、アプローチできない...

→ 記録で得られた知識の**市民への還元（共有化、オープンサイエンス）が不十分**

後藤2019

◆**可視化（DA）**で若い世代にも伝わる

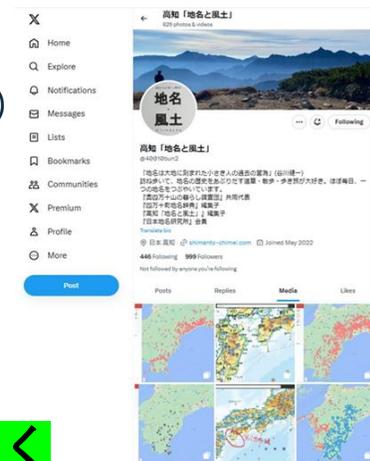
奥四万十山の暮らし調査団のX「地名と風土」1300フォロワー

**市民参加、専門性、マンパワー、資金**にハードル（**デジタル文化資源へのステップアップ**）

→ **市民協働（市民と研究者の協働）、オープンリソース（市民でもできる）**

**市民研究者の参画 市民団体 が可能性を拓く？**

**文化行政や研究者がやってくれるのを待つのでなく、協働で地域アーカイブをつくっていく**



**市民科学** = 市民と研究者によって実施される調査研究

→ 歴史学の調査研究方法の一つ、**担い手を分類して整理する**

## 【市民科学の担い手】

市民科学とは？

・市民と研究者によって実施される調査研究

### 大分類

#### 〔市民〕

日常的に学術活動を行っていない地域住民や市民

#### 〔研究者〕

学術的な専門知識を習得して日常的に学術活動を行う者

### 小分類

#### 【市民】

専門知識を持たない一般市民

#### 【研究者】

科学雑誌に論文を載せるなど高度な専門知識を持つ者

#### 【市民研究者】

専門知識を有する熱心な市民  
(郷土史家や愛好家ら、科学雑誌への論文掲載はない)

#### 【高専生】

#### 【大学生】

#### 【大学院生】

一定の専門知識を持つ学生

# 10年の地域アーカイブの試み

地域文化資源	団体	活動地域	著者の役割	分析(章)
小地名	奥四万十山の暮らし調査団	四万十町	事務局長	2.1, 3
屋号	いしはらの里・むかしを語る会	土佐町	アドバイザー	2.2, 3
棚田	梶原史談会	梶原町	連携者	2.3, 3
村落景観	朝倉まちづくりの会	高知市	連携者	2.4, 3
村落景観	高知工科大里山プロジェクト	香美市	プロジェクトメンバー	2.4, 3
近現代資料	高知地域資料保存ネットワーク	高知市	事務局・会計	2.5, 3
学校資料	高知県の学校資料を考える会	土佐清水市	事務局長(前)	2.6, 3
戦争体験	西土佐の満州分村を語り継ぐ会	四万十市	事務局長	2.7, 3
戦争体験	満洲の歴史を語り継ぐ高知の会	高知市	事務局長	2.7, 3
防災資料	上川口地区自主防災会	黒潮町	連携者	2.8, 3
地域祭礼	中村連合青年団	四万十市	団員(元)	2.9, 3

## 【対象資料】

小地名、屋号、棚田、村落景観、近現代資料、学校資料、戦争体験、防災資料、地域祭礼



## 【対象団体・地域】

8市町 11団体の実践事例



# 高知での実践結果

報告者が関わる  
8市町11事例を検証

◆テーマ設定から市民研究者が参画することで、記録・普及がうまくいく。

◆市民が参画することで、普及の担い手になれる

◆市民参加が限定的だと普及に発展せず

◆市民研究者の橋渡し

(熱心で知識のある市民をいかに巻き込むかが成功のカギ)

市民参加が進んだ共創型。市民が「普及」に関わる活動も

専門知識を持つ市民「市民研究者」が、一般市民と研究者をつなぐ役割

地域文化資源		小地名			学校資料			近現代資料			戦争体験1			戦争体験2		
団体・担い手		奥四万十山の暮らし調査団			高知県の学校資料を考える会			高知地域資料保存ネットワーク			西土佐の満州分村を語り継ぐ会			満洲の歴史を語り継ぐ高知の会		
活動ステップ		市民			市民			市民			市民			市民		
		【市民】	【市民研究者】	研究者	【市民】	【市民研究者】	研究者	【市民】	【市民研究者】	研究者	【市民】	【市民研究者】	研究者	【市民】	【市民研究者】	研究者
記録	1. テーマの設定	×	○	○	×	○	○	○	△	○	○	○	○	×	○	○
記録	2. 情報収集	×	○	△	×	○	△	△	△	○	○	○	○	×	○	△
記録	3. 調査計画の立案	×	○	○	×	○	○	×	△	○	△	△	○	×	△	○
記録	4. データの記録	△	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	×	○	○
記録	5. データの整理	△	○	○	△	○	○	△	△	○	○	○	△	○	○	△
記録	6. データの分析	×	○	○	△	○	○	△	△	○	△	○	○	△	○	△
普及	7. 結果の公表	×	○	○	△	△	○	△	△	○	○	○	○	△	○	○
普及	8. 広報・啓発	×	○	△	△	○	△	△	△	○	○	△	△	△	○	△
普及	9. 他組織との連携	×	○	△	△	○	△	△	△	○	○	△	×	×	○	△
普及	10. 文化資源の継承	△	○	×	△	○	×	○	○	×	○	○	△	○	○	△
市民科学の類型		共創型			共創型			共創型			共創型			共創型		

地域文化資源		屋号		地域祭礼			村落景観1			村落景観2			災害資料		棚田	
団体・担い手		いはらの里・むかしを語る会		中村連合青年団			朝倉まちづくりの会			高知工科大学 里山プロジェクト			上川口地区 自主防災会		橋原史談会	
活動ステップ		市民		市民			市民			市民			市民		市民	
		市民	研究者	【市民】	【市民研究者】	研究者	市民	【大学生】	【研究者】	市民	【大学院生】	【研究者】	市民	研究者	市民	研究者
記録	1. テーマの設定	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	△	○	×	○
記録	2. 情報収集	△	○	○	○	○	△	○	○	×	○	○	○	○	×	○
記録	3. 調査計画の立案	△	○	△	○	○	×	○	○	×	○	○	×	○	×	○
記録	4. データの記録	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○
記録	5. データの整理	○	○	○	○	○	△	○	△	×	○	○	×	○	×	○
記録	6. データの分析	△	○	—	—	—	×	△	○	×	○	○	×	○	×	○
普及	7. 結果の公表	△	○	△	△	○	×	×	○	×	○	○	×	○	×	○
普及	8. 広報・啓発	○	○	○	○	△	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
普及	9. 他組織との連携	○	×	△	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
普及	10. 文化資源の継承	○	×	○	○	×	○	△	×	○	△	×	×	×	×	×
市民科学の類型		共創型		共創型			貢献型			貢献型			貢献型		貢献型	



学校資料 小地名 小地名 近現代資料 地域祭礼 戦争体験 戦争体験

# オープンソースで DAの出力先作り 市民科学 プラットフォーム

## HP「高知工科大学フィールドデータベース」(KUTFDB) (2018年～高知の歴史環境情報が一覧できるプラットフォーム)

④高知工科大学 FDB



- ・ **オープンソース**  
(Googleサイト・Googleマイマップ) 活用

- ・ **町歩き地図、調査支援ツールなど**  
**活用レベルの可視化**

- ・ 市民団体や研究者の調査成果  
公開 (55件) **12団体30人**

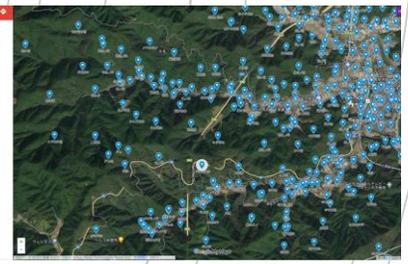


031 | 介良荘遺跡地図  
030 | 土佐留荘遺跡



029 | 曙町の商店街と人々  
028 | 高知大学南側の旧跡

No.	NAME	種別	緯度	経度	分類	大字	内容
1	オキサカ	オキサカ	33.64548	133.718140	地名	中後入	地味標・口
2	ヒコ井	ヒコ井	33.64607	133.717239	地名	中後入	口
3	サンガ	サンガ	33.64035	133.71908	地名	中後入	口
4	オキサカ	オキサカ	33.64273	133.71806	地名	中後入	口
5	ウツ	ウツ	33.64711	133.71843	地名	中後入	口
6	オキサカ	オキサカ	33.64598	133.71843	地名	中後入	口
7	オキサカ	オキサカ	33.64598	133.71843	地名	中後入	口
8	オキサカ	オキサカ	33.64598	133.71843	地名	中後入	口
9	オキサカ	オキサカ	33.64598	133.71843	地名	中後入	口
10	オキサカ	オキサカ	33.64598	133.71843	地名	中後入	口
11	オキサカ	オキサカ	33.64598	133.71843	地名	中後入	口
12	オキサカ	オキサカ	33.64598	133.71843	地名	中後入	口
13	オキサカ	オキサカ	33.64598	133.71843	地名	中後入	口
14	オキサカ	オキサカ	33.64598	133.71843	地名	中後入	口
15	オキサカ	オキサカ	33.64598	133.71843	地名	中後入	口
16	オキサカ	オキサカ	33.64598	133.71843	地名	中後入	口
17	オキサカ	オキサカ	33.64598	133.71843	地名	中後入	口
18	オキサカ	オキサカ	33.64598	133.71843	地名	中後入	口
19	オキサカ	オキサカ	33.64598	133.71843	地名	中後入	口
20	オキサカ	オキサカ	33.64598	133.71843	地名	中後入	口



- ・ 市民科学によるミクロ・膨大な地域資源データ
- GIS (デジタル地図) と CSVデータ で公開
- アーカイブ機能、オープンデータ (研究利用)

# 市民科学による「可視化」の実態を検証

11事例

## アナログ・デジタルで多様な歴史情報の可視化が実現

- 多様な「可視化」で継承主体に成果を還元
- デジタルツール・オープンリソース利用〔HPやGIS〕により低コスト、省力化実現
- 成果を一覧できるプラットフォーム整備が「可視化」を促進  
〔市民〕がアーカイブズ構築、位置情報などデジタル化を意識した記録



手描きの地域資源地図は画家でもある「市民研究者」(林野庁職員)が役割。



資料	団体	印刷物	アーカイブ	展示	資源地図	ホームページ	GIS	特性	注意点
小地名	奥四万十山の暮らし調査団	現地調査報告書、論文	地名集成表、資源DB	×	地名地図、資源地図	地名辞典	KUTFDB	身近な文化資源、幅広い可視化が可能	アナログでの表示は容易だが、空間標示物でデジタル表示は可能だが作業がやや困難
屋号	いしはらの里・むかしを語る会	調査ノート	屋号集成表、資源DB	×	屋号地図、資源地図	文化資源ノート	KUTFDB	身近な文化資源、幅広い可視化が可能	アナログでの表示は容易だが、空間標示物でデジタル表示は可能だが作業がやや困難
棚田	構原史談会	論文	資源DB	×	資源地図	×	KUTFDB	歴史的変遷が見える	分析が専門的、デジタル表示は可能だが作業がやや困難
村落景観	朝倉町づくりの会、佐岡活性化協議会	現地調査報告書、論文	地名集成表、資源DB	×	資源地図	地名辞典	KUTFDB	歴史的変遷が見える	分析が専門的、デジタル表示は可能だが作業がやや困難
災害資料	上川口自主防災会	論文、(自治体史)	×	×	津波浸水復元図	×	KUTFDB	過去の災害を詳細に復元して可視化	分析が専門的、デジタル表示は可能だが作業がやや困難
近現代資料	高知地域資料保存ネットワーク	資料集、目録集、ハンドブック、論文	資料目録、記録写真	○	博物館、公文書館	フェイクブックページ	Googleマイマップ	実物資料は展示が可能。図書館・公文書館と連携した資料公開	位置情報は個人情報にあたるため盗難のリスクも考え非公開。団体・研究者間での可視化
学校資料	高知県の学校資料を考える会	ハンドブック、自治体史、論文	資料目録、記録写真	○	公文書館、学校博物館、公民館	考える会HP	Googleマイマップ	実物資料は展示が可能。教育委員会と連携した資料公開	学校資料は公文書のため、可視化には一定の制限がある。
戦争体験	西土佐の満州分村を語り継ぐ会、満洲の歴史を語り継ぐ高知の会	記念誌、記録集、論文	資料目録、映像記録	○	公民館、道の駅、博物館	語り継ぐ会HP	Googleマイマップ	資料と証言を組み合わせることで複合的に可視化	映像資料は視覚的だが、活字化による資料化、編集を行う必要がある。
地域祭礼	中村連合青年団	調査報告書	映像記録	○	地域に掲示	×	×	祭礼前の広報手段としてのポスターによる可視化は効果的	祭礼実施が主体で、担い手は住民。時期も限定されるため、幅広い可視化に至らず。

# 市民協働による地域DAの課題と可能性

## ●マンパワーの課題

・実態は【市民研究者】【研究者】中心の活動、記録できる地域文化資源には**限界も**

→ 市民研究者の参画や育成が必要。**継承や活用へつながる地域アーカイブだからできる方法論**

→ 担い手の参加促進による**独立型への発展、活動モデルの普及による広範化**

県内では対象や団体が増えるクラスター化が進んでおり、より広がる可能性

## ●人的ネットワークの構築

・デジタルツールを活用したプラットフォームによる**Web上のネットワーク**

・**人的ネットワークの構築**による活動拡大へ（団体間での得意分野の知識共有、支援連携）

・拠点として公的機関が役割を果たせる可能性

## ●研究者側の意識も必要

・研究のための研究でなく、**地域に目を向ける研究者を増やす、後進の育成**

・市民と研究者の協働（市民科学）によって、**知識を普及し社会のために役立てる「学問の社会実装」を進めていく必要性**

## 【討論案】 「地域文化を可視化する－市民協働とデジタルアーカイブ－」

- 地域資料について、（研究者・所蔵者が）やりたいこと、できること。マンパワーや予算、保存の問題など課題も多い。
- DAの促進には自治体や博物館、図書館との連携も課題。
- 人口減少で資料自体がなくなってきている。地域資料をどう残すかが課題になっている。
- 消滅した村にも様々な記録がある。記憶のアーカイブも大切。
- 大量の資料をどう整理していくか、連携やコミュニケーション、市民科学の方法論が糸口になる。市民参加がアーキビストの育成にもつながる。
- ウィキペディアタウンなどもオープンリソースの有効活用も方法論の一つ。討論でも簡単に紹介を